



はじめのいっぽ

平成 29 年度
7 月号

平成 29 年 6 月 29 日
幼保連携型認定こども園
東野田ちどり保育園
江川 永里子

梅雨を感じる事のない雨の少ない日が続いています。

屋上の夏野菜、ナス、トマト、ピーマン、ししとうがグングン成長しています。

早速収穫し、給食でご馳走になりました。「とれたては最高においしいです。」

自然の力を体験しながら子ども達も夏は一段と心も身体もたくましくなる時です。

安田式プールに入ることも夏の楽しみの一つです。「晴れたら…プール！！」夏を満喫したいと思います。



～ アドラー より ～

勇気づけをはじめよう

1.適切な行動や適切な側面を探そう

適切な行動を見つけだしましょう。適切な行動は見逃しやすいのです。子どもはいつでも適切な行動をしているのだと思って、意識して探してみましよう。

また、不適切な行動のなかの適切な側面を探しましょう。不適切な行動だと思っているものでも、よく観察して考えると、かならず適切な側面があるものです。そこに正の注目を。

2.短所ではなくて長所に焦点をあてよう

子どもの性格上の短所や欠点を指摘して批判しても、子どもは勇気をくじかれるだけです。長所や才能に焦点をあてると、子どもを勇気づけることができる場合があります。

3.結果よりもプロセスを重視しよう

努力したのに結果がよくなかったということがあります。このような場合には、結果ではなくて、努力したという過程に焦点をあてて勇気づけしましょう。

4.子どもの成長を認めよう

子どもは毎日成長しています。たとえば、小学校 2 年生の子どもは、その子が 1 年生だったときよりも、字も上手に書けるし、計算も上手にできます。たとえその子が、親が望むほど上手に字が書けなくても、上手に計算ができなくても、確実に成長していています。そこに焦点をあてると、子どもを勇気づけることができます。

5.他の子どもと比較しないでおこよう

子どもはひとりひとりユニークです。他の子どもと比較することにはなにも意味がありません。その子がその子独自のやり方で生きていくのを援助したいのです。他の子どもと同じ人生を送っても仕方がないではありませんか。

6.親子は仲間です

子どもがどんな子どもであっても、あなたはその子の親です。どこまでもあなたの子どもの味方でいてあげてください。子どもと温かい信頼関係をつねに保っているように努力すること。子どもとの関係がよくなないと、子どもを勇気づけることはできません。